

2019年5月10日発行

\*\*\*\*\*  
東海生研 ～メールマガジン 第173号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
- ☆2019年度 NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会総会および  
第1回セミナー (6月19日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆食品安全セミナー (5月30日)
- ☆名城大学農学部公開講座 (6月8日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆2019年度 A-STEP 機能検証フェーズ 試験研究タイプ (JST)
- ☆2019年度 企業主導フェーズ NexTEP-B タイプ (JST)
- ☆2019年度 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ (JST)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆1◆ 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 通常総会および第1回セミナー

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会は、通常総会と第1回セミナーを下記の通り開催します。

【開催日時】 2019年6月19日 (水) 14:30～15:30 総会  
15:45～16:45 第1回セミナー

【開催場所】 ウィンクあいち (愛知県産業労働センター) 13階 1303号室  
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【第1回セミナー】講演

演題: 「地元産農産物を利用したジャムの製造・販売による地域活性化」

講師: 株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役 松嶋匡史 氏

【情報交流会】 ウィンクあいち13階 1303号室

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆食品安全セミナー

(東海農政局)

【開催日時】5月30日(木)13時30分～16時00分

【開催場所】名古屋能楽堂 会議室(愛知県名古屋市中区三の丸1-1-1)

会場案内図は下記プレスリリースの添付資料を御覧ください。

駐車場は確保してありませんので、公共交通機関の利用をお願いします。

【プレスリリース】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/190423.html>

【内容】

第1部 13時30分～14時05分

「食品安全と行政の取組」

東海農政局 消費・安全部 職員

第2部 14時20分～15時50分

「食中毒を防ぐために」

中部大学 応用生物学部 食品栄養科学科 教授 森山 龍一 氏

【参加者募集】募集人数 70名(申込者多数により御参加いただけない場合のみ、連絡)

対象者：一般消費者、参加費無料

【申込み】申込期限 5月28日(火)17:00

参加申込書は上記プレスリリースのURLから取り出し、必要事項をご記入の上  
FAX又はインターネットでお申し込み下さい。

.....  
☆名城大学農学部公開講座「食と農の安全を考える(第4回)」

【開催日時】6月8日(土)13時～15時30分

【開催場所】名城大学天白キャンパス 共通講義棟北 N-201 講義室

(名古屋市天白区塩釜ロー丁目501番地)

駐車場は確保してありませんので、公共交通機関の利用をお願いします。

【内容】講演テーマ：安全・安心と地産・地消

講演1 講師 (公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会 組織委員会

総務局 持続可能性部 持続可能性事業課長 日比野佑亮 氏

講演2 講師 株式会社 恵那川上屋 代表取締役 鎌田慎悟 氏

【参加】参加費無料、定員200名(先着順)、どなたでも参加できます。

事前申し込み不要。直接会場にお越しください。

【お問い合わせ】 農学部事務室 電話：052-838-2054

(受付時間：9時～17時、土日祝祭日を除く)

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 2019年度競争的研究資金等について

☆2019年度 A-STEP 機能検証フェーズ 試験研究タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

公募要領：[https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou\\_koubo.pdf](https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou_koubo.pdf)

分野等：大学等のシーズが企業ニーズ（企業の抱える技術的課題）の解決に資するかどうか確認するための試験研究を支援対象とする（医療分野を除く）。コーディネーター等の橋渡し人材が企業と大学等とを調整の上、三者連名で大学等の研究代表者が代表して提案書を作成し応募する。

研究開発期間及び研究開発費：1年、上限300万円

公募期間：第2回目：2019年5月23日～7月23日正午

注意：同一研究代表者が、(1)A-STEP 機能検証フェーズへの複数課題の応募不可。

(2)試験研究タイプと実証研究タイプの両方への応募不可。(3)試験研究タイプの第1回と第2回の両方への応募不可。

☆2019年度 企業主導フェーズ NexTEP-B タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-b.html>

分野等：研究開発型中小企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長5年

研究開発費：マッチングファンド方式、実施料納付、原則～3億円

公募期間：2019年3月11日～6月10日正午

☆2019年度 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長 10 年

研究開発費：実施料納付、原則 1 億円～15 億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10%返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第 1 回目締切 2019 年 7 月 31 日正午

.....

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください。

「農林水産・食品分野の公募情報」:

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/public/public-2508>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆米・麦・大豆関係

○多収で倒伏や病害虫に強く飼料用米に適した水稻新品種「みなみちから」を育成

農研機構は、関東以西の地域で栽培が可能で、多収で倒れにくく、病害虫に強い水稻新品種「みなちから」を育成しました。温暖地や暖地における飼料用米の安定生産へ向けて、普及が期待されます。

・農林水産技術会議事務局 HP：「2018 年農業技術 10 大ニュース」の選定について

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/181221.html>

・農林水産技術会議事務局 HP：多収で倒伏や病害虫に強く飼料用米に適した水稻新品種「みなみちから」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/181221-12.pdf>

・農研機構 HP：プレスリリース（研究成果）

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/warc/079721.html](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/079721.html)

☆花き関係

○頭上散水によるキクの高温対策技術を開発

愛知県農業総合試験場は、2018年の10大ニュースを発表しています。今回はこの中から標記の技術をご紹介します。キク栽培では、夏季の高温による開花遅延や生育不良が多発しています。高温対策にはヒートポンプによる冷却やミストによる気化冷却が有効

ですが、いずれも導入コストが高く、キクでの普及が妨げられています。そこで、キクで広く普及している頭上灌水装置を気化冷却に利用することを試みました。すなわち、夏季の8～15時の間に頭上灌水装置を用いて少量多頻度で散水処理をした結果、ハウス内温度は4～5℃低下し、キクの開花遅延が抑制され、草丈が伸び、切り花も重くなりました。また、キクの葉の黄斑点の発生が大幅に抑制されました。

・愛知県農業総合試験場 HP：2018年愛知県農業総合試験場の10大成果

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/284084.pdf>

#### ☆果樹関係

○カキの樹幹害虫対策はヒメコスカシバを中心に体系的に取り組みましょう

カキの樹幹害虫は、ヒメコスカシバとフタモンマダラメイガの2種とされています。これら2種の発生時期や加害時期等不明の点が多く、的確な防除を行うことが困難でした。そこで、岐阜県農業技術センターでは、両種の発生生態、被害の実態、交信攪乱法や殺虫剤散布による防除効果を検討しました。その結果、被害の大半はヒメコスカシバによるものであり、フタモンマダラメイガの幼虫は寄生蜂により大半が死亡することが分かりました。防除法としては、交信攪乱剤、高濃度少量散布、通常の殺虫剤散布を組み合わせた体系防除を行うことで、被害を大幅に抑制できることが分かりました。研究成果をまとめ、樹幹害虫対策の手引きも作成しました。

・岐阜県農業技術センターHP：平成29年度研究成果

<http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

○ウンシュウミカンの隔年結果是正のための早期摘蕾と省力的な水噴射ノズルの効果

三重県農業研究所では、温州ミカンの隔年結果を効率的に是正し、摘蕾適期の延長と作業の省力化を図るために、早期摘蕾（発芽後間もない蕾が小さい頃）が効果的であることを明らかにするとともに、水噴射ノズルを使った省力的な作業方法も開発しました。

・三重県農業研究所 HP：平成29年度三重農研 研究成果情報

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000830495.pdf>

#### ☆畜産関係

○国産モミ米を配合した養鶏飼料「こめっ娘（こ）」シリーズの開発

昭和産業グループは食糧自給率向上への貢献を目指して飼料用米事業に取り組んできました。当初は玄米を成鶏用飼料に配合していましたが、脱穀後のモミ殻処理が課題となりました。そこで、モミ米のままでの鶏の飼料化に取り組みましたが、粒が大きくヒナは食

べることが出来ませんでした。このため、モミ米を粉碎して形成加工（ペレットクランブル）する技術を開発し、飼料化に成功しました。この飼料をヒナに与えることにより、ヒナの発育を良好にし、腸内細菌の改善、筋胃増大等の効果が認められました。これにより、ヒナから採卵鶏まで一貫してモミ米配合飼料を給与することが可能となりました。本技術の開発により、当該社は平成26年度民間部門農林水産研究開発功績者表彰において、農林水産技術会議会長賞民間企業部門賞を受賞されました。

・農林水産技術会議 HP :

<http://www.affrc.maff.go.jp/koho/message/2015/message20150315.htm>

☆森林・林産関係

○キノコバエ対策

キノコバエ類による被害としては、幼虫が菌糸や子実体を食害することによる収量の低下と幼虫が付着した子実体の流通による異物混入が大きな問題となっています。岐阜県森林研究所は、現在行われている光により誘引捕殺する方法、粘着シートで捕殺する方法では十分な効果が得られないこと、菌床栽培で使える農薬が無いことから、廃菌床の水没法及び青色光による幼虫の殺虫法についての研究を行い、実用化に有望な結果が得られています。

・岐阜県森林研究所 HP : 菌床シイタケ栽培の敵 キノコバエを減らす方法

<http://www.forest.rd.pref.gifu.lg.jp/rd/shigen/05101gr.html>

・岐阜県森林研究所 HP : 青色光でシイタケの害虫を防除する

<http://www.forest.rd.pref.gifu.lg.jp/rd/kankyau/mori190101.html>

.....

編集後記

5月1日から改元により平成から令和に変わるとともに、今年のゴールデンウィークは、10連休となりました。帰省、レジャー、自己研鑽、休養にと有意義に過ごされたいと思います。

当研究会におきましては、平成3年に任意団体として設立されて以来、平成の時代と共に歩んできました。令和の時代においても、産学官連携による農林水産・食品産業における新技術の研究開発の促進支援と地域活性化を目指して一層の活動強化を図って参りますので、引き続き、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

ところで、最近読んだ本として、畑村洋太郎著「技術大国幻想の終わり～これが日本の生きる道～」(2015年初版発行；講談社現代新書)があります。畑村氏の著書については、本メルマガの2015年11月号で「失敗学のすすめ」講談社文庫(2005年)をご紹介しました。著者は、政府の東京電力福島原子力発電所に関する事故調査・検証委員会委員長を務めるなど、日本においてリスク管理について深い見識を有する識者の一人です。本書で

は、今後、日本が直面する大きな課題、エネルギーと食糧の確保、少子高齢化、巨大地震と地球温暖化、貿易立国モデルの終焉と産業停滞の原因等について分析しています。今後、日本はこれまでの成功体験から脱却し、「価値」創造を真剣に考えていくこと、常に変化していくことを前提に市場を作っていく戦略を考えていくこと、広いアジアを中心、異文化社会が求める商品とはどんなものを現地で把握し、それを作り売っていく姿勢の重要性、技術開発を単に高機能化ではなく現地社会が求める方向に沿って行うこと、そのかじ取りができる企業トップの能力の重要性など、示唆に富む事柄が多岐にわたって述べられています。本書は、今後の日本及び企業の進むべき道を考えていく上で、参考となり、ヒントを与えてくれるものと思われます。 (松井正春 記)

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>